

沖繩再訪

修学旅行で訪問した沖繩をこの一月に十七年ぶりに訪れました。今回は仕事のための旅行でしたが、根っからの鉄道好きの私には一つだけどうしてもやりたいことがありました。日本でもっとも南を走る鉄道、沖繩都市モノレールの乗車です。このモノレールは助け合いや共生を意味する沖繩方言「ゆい（結い）まーる（順番）」と「モノレール」を組み合わせた「ゆいレール」の愛称で親しまれています。

ゆいレールは、昨年十月に「首里駅」から浦添の「てだこ浦西駅」までが延伸されました。「那覇空港駅」から終点の「てだこ浦西駅」までは片道約四分です。空港内の国内線ターミナルと「那覇空港駅」は連絡通路によって直結しているため、那覇市や浦添市内の主要な観光スポットへの移動手段として観光客にも利用されています。早朝の五時三十九分（てだこ浦西駅発）から最終便二十三時三十分（那覇空港駅・てだこ浦西駅発）まで、約八分間隔で運行しており、渋滞とも無縁のため、スムーズに移動が可能です。また、車窓からは美しい那覇・首里の街並みを眺めることができます。車両は二十一世紀にふさわしい、沖繩の持つ豊かな地域性と国際性を活かした五つのキーワード『優』『涼』『景』『清』『軽』を元に、シンプルとソフト、簡潔で明快なデザインになっています。

ゆいレールを使って訪れるおすすめの観光スポットはいくつかあります。まずはお土産物店や飲食店が立ち並ぶ沖繩の定番観光スポット・国際通り。そん

な国際通りの入り口にあるのが県庁前駅です。この国際通りで大人気な土産物の一つにちんすこうがあります。砂糖・ラード・小麦粉をこね合わせ、木型で抜き取り、焼き上げたお菓子です。最近では塩味を効かせた雪塩ちんすこうが有名ですが、そのほかにもパイナップルや黒糖、ココナッツ、島唐辛子など様々な味のものがあります。

また、那覇市で唯一の遊泳ビーチ、開運ビーチこと波の上ビーチへは、県庁前駅から徒歩十五分。青い海が見渡せる崖の上にそびえ立つ波上宮へも徒歩三分で行くことができます。波上宮の四カ国語対応おみくじは国内外からの参拝客に人気です。夜には牧志駅から徒歩四分の「国際通り屋台村」で沖縄料理を満喫できます。同じく牧志駅から十二分ほど歩くと「壺屋やちむん通り」が見えてきます。沖縄の方言で陶器の焼き物を意味するやちむん。伝統的な焼き物から現代風にアレンジされた作品まで数多くそろっているので、自分好みのやちむんがきつと見つかるはずです。

ゆいレールは私が前回沖縄を訪れた三ヶ月後、二〇〇三年八月一日に開業したため前は乗ることができなかったのです。念願叶って那覇空港駅から乗車したゆいレール。車内アナウンスでは駅到着の案内の前に駅ごとに違った沖縄の音楽が流れ、それだけでも旅情を感じます。「安里駅」の到着の前に聞こえてきたのは修学旅行の時にバスガイドさんに教えてもらってみんなで歌っていた「安里屋ユンタ[※]」。十七年前の楽しい思い出が一気によみがえりました。

ちょうど滞在最終日、ホテルをチェックアウトしてから帰りの飛行機までに

時間があつたので終点の「てだこ浦西駅」まで乗ってみることにしました。「てだこ浦西駅」の周りには何もないと聞いていたので全盲一人旅の私は着いたらすぐ引き返して那覇空港で出発までの時間をつぶすつもりでした。真新しい「てだこ浦西駅」到着し、終点まで乗れた満足感に浸りながら改札口を探して歩いていると、「ご案内しましょうか？」と一人の男性に声をかけられました。沖縄の盲学校出身の弱視の方でした。改札口側でしばらく立ち話をしているうちに共通の友人が何人もいることがわかり、私たちはほんの数分ですっかり意気投合してしまいました。

「実は沖縄の友人にA&W エンダー R o o t ル B e e r ート ビ アをすすめられたので、一度飲んでみたいんですね」というと、「それならここから車で五分ぐらいのところにA&Wがあるのでよかつたら今から一緒に行きませんか？」と男性。気がつく二人でタクシーに乗っていました。

日本で沖縄にしかないファーストフード店A&W。R o o t B e e rはこのお店の名物で、湿布のにおいがすることでも有名です。このノンアルコールの飲み物は確かに独特のにおいがしましたが、味は思っていたよりも私には飲みやすくちよつと癖になりそうでした。そんな新鮮な感覚を楽しみつつ私たちは盲学校時代の思い出や今の仕事のことなどついさつき出会ったばかりとは思えないほど色々な話題で盛り上がったのでした。

日本で最も南を走る鉄道「ゆいレール」。その終点で私が見つけたものは十七年前の修学旅行で私を包みこんでくれた沖縄の人の優しさと温かさそのもの

でした。

※安里屋ユンタ：沖縄県八重山地方の古謡。竹富島の安里屋という屋号の娘を
めぐる長編叙事詩風の作業唄。（『広辞苑 第七版』より）